

チャレンジ！！オープンガバナンス 2022 市民／学生応募用紙

自治体提示の地域課題名 (注1)	No.	自治体提示の地域課題名	自治体名
	- (事務局用)	日常生活で取り組める地域防災・減災体制の推進	滋賀県 草津市
チームがつけたアイデア名 (公開) (注2)	おうちマネっこ BOUSAI		

(注1) 地域課題名は、COG2022 サイトの中に記載してある応募自治体提示の地域課題名を記入してください。

(注2) アイデア名は各チームで独自にアイデアにふさわしい名前を付けてください。これは自治体提示の地域課題名とは別です。

1. 応募者情報 赤字部分は削除して該当の番号を記入

チーム名 (公開)	チーム BOUSAI のスキマ		
チーム属性 (公開)	1. 市民、2. 市民／学生混成、3. 学生	<u>1</u>	
メンバー数 (公開)	10名		
代表者 (公開)	江藤 沙織		
メンバー (公開)	関季見子、奥村美佳、山口陽子、森田紀美、坂ノ下勝幸、河合真紀 田中加奈子、上田恵、札幌泉		

【注意書き】※ 必ず応募前にお読みください。

<応募の際のファイル名と送付先>

- 応募の際は、ファイル名を COG2022_応募用紙_具体的チーム名_該当自治体名にして、以下まで送付してください。東京大学公共政策大学院の COG2022 サイトにある応募受付欄からもアクセスできます。admin_cog2022@pp.u-tokyo.ac.jp

<応募内容の公開>

- アイデア名、チーム名、チーム属性、チームメンバー数、代表者と公開に同意したメンバー氏名、「アイデアの説明」は公開されます。
- 公開条件について：
「アイデアの説明」でご記入いただく内容は、クリエイティブ・コモンズの CC BY (表示) 4.0 国際ライセンスで、公開します。ただし、申請者からの要請がある場合には、CC BY-NC (表示-非営利) 4.0 国際ライセンスで公開しますので、申請の際にその旨をお知らせください。いずれの場合もクレジットの付与対象は応募したチームの名称とします。
(具体的なライセンスの条件につきましては、<https://creativecommons.org/licenses/by/4.0/legalcode.ja>、および、<https://creativecommons.org/licenses/by-nc/4.0/legalcode.ja> をご参照ください。また、クリエイティブ・コモンズの解説もあります。<https://creativecommons.jp/licenses/>)
- 上記の公開は、内容を確認した上で行います。(例えば公序良俗に違反するもの、剽窃があるものなどは公開いたしません)
- この応募内容のうち、「自治体との連携」は、非公開です。ただし、内容に優れ今後の参考になりうると判断したものは、公開審査後アドバイスの段階で相談の上公開することがあります。

<知的所有権等の取扱い>

- 「アイデアの説明」中に、応募したチームで作成・撮影したものではない文章、写真、図画等を使用する場合、その知的所有権を侵害していないことを確認してください。具体的には、法令に従った引用をするか、知的所有権者の許諾を取得し、その旨を注として記載してください。「自治体との連携」中も同様でお願いします。
- 「アイデアの説明」中に、人が写りこんでいる写真を使用している場合、使用している写真に写りこんでいる人の肖像権またはプライバシーを侵害していないことを確認してください。

<チームメンバー名簿>

チームメンバーに関する情報を最終ページに記載して提出してください。(2. の扱いによる代表者氏名を除き、他のメンバーに関する情報は本人の同意があるものを除き COG 事務局からは非公開です。詳細は最終ページをご覧ください。)

2. アイデアの説明（公開）

(1) アイデアの内容（公開）

アイデアの説明全体が肖像権・著作権等を侵害していないことの確認

○

(1) アイデアの内容、(2) アイデアの理由、(3) 実現までの流れ、の三項目に分けて記入してください。

必要に応じて図表を入れていただいて結構です。

(1) アイデアの内容（公開）

アイデアは、対象とする課題解決のために、何をする社会的な活動（サービス）なのか、をわかりやすく示してください。これが将来実現した場合、魅力的で新規性があり、実践したくなり、活用してみたいなる、そしてその結果として、課題が解決される、そんなわくわく感のあるアイデアを期待します。2ページ以内でご記入ください。

<応募チームとして解決したい課題の要点はこれ！をごく短く書いてください>

日常生活を守る、「困った」と声をあげられる防災。

<この課題解決のために「何を」するアイデアか、それを「誰が」「いつ」「どこで」「どのように」するかをわかりやすく書いていきます> <アイデアが具体的に実行される場面を想定してください。>

<よいアイデアを生むには関連データの分析確認とデザイン思考によるアイデアを使う人への共感が必要です>

ゆるいつながりを日常からつっておく仕組み作り「LINE グループ」の運営と、つながりから得た知識を蓄積するクックパッドの防災版を Instagram 上に作成し、運用するアイデア。ハッシュタグ「#おうちマネっこ BOUSAI」で投稿すれば誰でもアイデアを投稿したり、閲覧することが出来、防災は、公助だけではなく、自助もあると伝える、知ることができる。

私たちのアイデアは、防災は面倒くさい・わからない・気が重くなる・しんどくなる人が、気が向いたときに、または日常のやり取りで知らず知らずのうちに、ゆるくつながった LINE グループ(SNS)のなかで、楽しく、おもしろく、まねできる、まねしたくなる防災を LINE グループという仕組みを使って、防災への心理的ハードルを下げながら、防災のリフレーミングと新たな視点の獲得、承認欲求を満たしつつ身につく防災のあり方を目指すというものです。

すでに、ママが中心の自助・共助の練習をするための LINE グループ「あげます・もらいます・ください」を南草津マンション防災委員会として立ち上げて運営しており、グループの参加人数は 300 名を超えている。いざという時に初めて「困った」「助けて」と言うのは心理的ハードルが高いため、平時に「あげます」「もらいます」「ください」といった小さな「助けて」を発信して、成功するもしくは、誰かのそんな姿を見る。お互いの関係性の構築と、自分のことを発信しやすい環境づくりをしている。

「人のつながりこそ何よりの備えである」と考え、目的のある自由な交流に価値をおき、安心した人間関係を軸にしたグループにするため、参加は紹介制をとっている。紹介者の「いざという時に、この人と助け合いたい」と思えることが紹介基準で、グループの詳しい使い方などは基本的に紹介者が伝える。コンセプトや目的、投稿の仕方などを紹介者に任せる理由は、フォローを面倒なこととする相手とは有事の際に助け合うことが出来ないと考えたため。「まずは自分の手の届く範囲を幸せにする。」それ繰り返すことで、行政だけではフォロー仕切れない助け合いが実現できる。災害時にも助け合おう、と握り合えた人たちと暮らすことは豊かな街づくりにも通じる。

2. アイデアの説明（公開）

(1) アイデアの内容（公開）

↓LINEとInstagram 両方でリアルな繋がりとオンラインの繋がりを広げていく

LINE グループ	Instagram 投稿
<ul style="list-style-type: none">・招待制（この人と助け合いたいと思える、リアルにつながっている人たちの集まりを作る）・日頃からグループ内でつながる・情報交換・物々交換・イベントで出会う	<ul style="list-style-type: none">・誰でも見られる・誰でも参加できる・アイデアを共有し、投稿やコメントで交流・イベントで出会うことでリアルな繋がりに

2. アイデアの説明（公開）

(2) アイデアの理由（公開）

(2) アイデアの理由（公開）

このアイデアを提案する理由（なぜ）について、それをサポートするデータを根拠として示しつつ 2 ページ以内で説明してください。ここではアイデアの必要性、効果を確認します。データとは、統計類などの数値データやアンケート・インタビュー・経験の記述、関連の計画、既存の施策などの定性データも広く含みます。データは出所を明らかにしてください。

<このアイデアを提案する理由（なぜ）を書いていきます>

<先の（1）で書いた「何を」「誰が」「いつ」「どこで」「どのように」するというアイデアの内容を支えるための、「なぜ」このアイデアがいいのか実現したいのかを上記のデータを示しつつ書いていきます>

自分のためになる防災をする。

災害時も、「出来るだけいつも通り暮らせるように」を目指し、「しっかり防災をする」を目指さない。「防災」は名詞ではなく動詞。自分を守る行動であれば、一般的な「防災」という概念から逸脱しても良いと考える。

災害は悲しいからこそそれを防ぐ活動は思い切り楽しみたい。災害は、日常の延長にある。わざわざ取り組むのではなくいつもの中に組み込みたい。

行政や地方自治体が主体となる防災訓練などは、皆に必要な情報や内容である特徴を持つ。ミスマッチが起こらない反面、1人1人の胸に刺さる内容にならず日常の行動に反映されにくい。なぜなら日常の生活様式や趣向は様々であるため一般化しにくく個々に寄り添った提案ができないことが理由の一つである。

また専門家や地域の活動家、被災経験のある人など、防災は特別な人がするものになりがちである。深く探究する方向の防災も大切であるが、被災はどんな人でもする可能性があるため、一般的に興味がない人も当事者として向き合うことは早急に必要である。

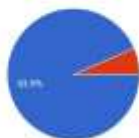
専門的にならずとも、自らの日常生活や大切なものを守る備えを考えておくことで、無防備に助けられる側という受動ではなく、能動的な個人となる。それだけでも行政の負担や地域復興にはプラスに働くはずだ。

しかし個人に寄り添う内容とは、自助のことであり、なかなか目にする機会がない。そこに発信するにしても正しさが優先されるあまり、マネするにはハードルが高いものもある。そこで、「隣の人はどんなことしてるのかな？」という覗きや井戸端会議感覚の共有ツールがあればいいのではと思いついた。この度の提案となった。クックパッドというレシピ共有サイトがあるが、これが流行っている理由の一つとしてマネしやすい。マネしたくなるというのがある。投稿型であるため現場で必要とされる情報になりやすい特徴がある。また「つくれば」という、マネして作ってみましたという報告機能があることでレシピ投稿者も、実践者も承認される場となる。アイデアのブラッシュアップやコミュニティ形成の一助にもなる。

今回リリースするにあたり、すでに関係性を備える自助防災組織である南草津マンション防災委員会で先に活用してみせることで、外部からもアクセスしやすくする。「自分のために防災をしよう。」と思うにはどうすればいいか。

楽しいならば、役に立つならば、簡単であるならば、負担が少ないならば、が「私たちのおうちマネっこ BOUSAI」この提案で解決出来ればと思う。

防災に興味がありますか？
128 件の回答



日常を守りたいですか？
128 件の回答



図176 東日本大震災における震災関連死亡の死者数(都道府県別・時期別)

資料：建設省「東日本大震災における震災関連死亡の死者数」(2013年3月)
 URL: http://www.meti.go.jp/press/2013/03/20130307/sts20130307_001.html
 注：震災関連死亡の死者とは、震災発生直後から震災発生から1週間以内の間に発生した震災関連死亡の死者を指し、震災発生から1週間を超えて発生した震災関連死亡の死者は含まれていない。震災発生から1週間以内の間に発生した震災関連死亡の死者は、震災発生から1週間以内の間に発生した震災関連死亡の死者を指し、震災発生から1週間を超えて発生した震災関連死亡の死者は含まれていない。

1.第 6 次草津市総合計画第 1 期基本計画
https://www.city.kusatsu.shiga.jp/shisei/seisaku/sogokeikaku/rokujisoukei/kihonkeikaku1/sogokeikaku.files/002-1_kihonkeikaku.pdf

2.草津市地域防災計画
<https://www.city.kusatsu.shiga.jp/kurashi/bosai/chiikibousaikeikaku/kikikanri20200331.html>

草津市の防災 HP
<https://www.city.kusatsu.shiga.jp/kurashi/bosai/index.html>

草津市防災ハンドブック
 草津市防災ハンドブック（1 ページから 23 ページ）（PDF : 7,471KB）
<https://www.city.kusatsu.shiga.jp/kurashi/bosai/bousaimap/handbook.files/51ece15f002.pdf>

草津市防災ハンドブック（24 ページから 43 ページ）（PDF : 6,375KB）
<https://www.city.kusatsu.shiga.jp/kurashi/bosai/bousaimap/handbook.files/51ece15f003.pdf>

草津市 ご近助力見える化調査結果報告
<https://www.city.kusatsu.shiga.jp/kurashi/bosai/chiikibousai/kikikanri1.files/gokinjoryoku.pdf>

チーム BOUSAI のスキマによる防災アンケート調査(対象:どなたでも 回答数 138 件)
 (チラシ)

「ユーザーローカル テキストマイニングツール (<http://textmining.userlocal.jp/>) による分析」

(3) アイデア実現までの流れ（公開）

アイデアを**実現する主体**、アイデアの**実現に必要な資源（ヒト、モノ、カネ）**の大まかな規模とその現実的な調達方法、アイデアの**実現にいたる時間軸を含むプロセス**、実現の制度的制約がある場合にはその解決策等、**アイデア実現までの大まかな流れ**について、**2 ページ以内**でご記入ください。ここでは実現可能性を確認します。

＜アイデアに即した実現に向けての具体的な活動を上記のポイントに即して工夫して書いていきまず＞

＜以下のように分けて書いていきます＞

1. 実現する主体

2. 実現に必要な資源（ヒト、モノ、カネ）の大まかな規模とその現実的な調達方法

3. 実現にいたる時間軸を含むプロセス

1. 実現する主体

南草津マンション防災委員会主宰「あげますもらいますください LINE グループ」

2. 実現に必要な資源（ヒト、モノ、カネ）の大まかな規模とその現実的な調達方法

ヒト 南草津マンション防災委員会主宰「あげますもらいますください LINE グループ」に参加している人で、できる人がやる

モノ Instagram アカウントでの防災の知識を投稿・蓄積し、ハッシュタグの機能を利用し集約する

カネ あげますもらいますください LINE グループに参加している人からの寄付を運営費用とする。運営の収支や、維持運営に必要な金額を「いつでも」「誰でも」見られるようにし、必要な運営費や、イベント運営費などは都度ごとに寄付を募る。

3. 実現にいたる時間軸を含むプロセス

LINE グループのコミュニティ運営は7年目を迎えている。今後も招待制で運用していく。

今ある LINE グループはそのままに、外部に防災の知恵を蓄積する場所として、Instagram を活用する。投稿には必ずハッシュタグ「おうちマネっこ BOUSAI」を使い、他のハッシュタグと共にハッシュタグ検索で表示させる。

Instagram アカウントは作成済み。運用を開始している。

(https://instagram.com/mama_commit?igshid=YmMyMTA2M2Y=)

1年後（2024年）の夏頃に、リアル繋がりから安心の場を広げること、楽しさとおいしさをもって防災に取り組めるよう「1年頑張ったねパーティー」を開催する。Instagram に投稿されたローリングストックにおすすめの美味しい缶詰やその調理法を実践してみる。

